

morinosの木材利用

岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ● 松井 匠

表層圧縮・ACQ・圧密の床材
床には三種の床材が使われています。デッキは「表層圧縮」したスギ。樋下のあたりには、ヒノキに防腐防蟻薬剤であるACQを注入した材を使っています。そして室内には「杉圧密フローリング」を使用しました。30mmの杉板を15mmまで圧縮したあとUVセラミックコーティングを施して、摩擦に強く木目もきれいに見える仕上げになっています。

CLT・構造用合板

MORINOSにはスギ3層のCLTが使われています。屋根の中で構造用合板と併用して、建物の耐震性を上げています。

「広葉樹のベンチと取っ手」「針葉樹を燃やせるストーブ」といろんな木材利用がまだあるのですが、書ききれない！オープンしたMORINOSにぜひお越しください。

すべて県産材

まず、このMORINOSは、巨大な丸太から小さな壁の下地材まで、木部をすべて岐阜県産材でつくりました。これから紹介する各部分もすべて岐阜県産材です。

V字丸太は演習林から

5対のV字丸太がこの建物のトレードマーク。県有林であるアカデミー演習林で育った100年生のヒノキです。構造計算と意匠デザインで決まったサイズは末口径330mm（胸高直径450mm程度）で7mの真っ直ぐな丸太。なかなかの上物です。この木を探しに行くところから始めて、林業教員と学生と一緒に伐採・搬出を行いました。

樹皮付き方立

MORINOSは屋外との繋がりを大切にしたいガラス張りの外壁。ガラスを押さえている「スギの方立」は樹皮がついたままになっています。これは、外部は丸太と樹皮で自然のままの姿を連想させ、室内に入ると加工された木になる、山から暮らしへ木が降りてくるという表現でもあります。乾燥時にPPバンドで固定し遠赤外線木材乾燥機を用いた人工乾燥で実現しました。

